

## 令和5年度第3回地域福祉審議会における意見について

	発言者	該当箇所	意見
1	種村委員	第4章 施策の展開 基本戦略 1(4)P.56 ①公共施設等のバ リアフリー化	「公共施設」には小中学校も入っているはずだが、小中学校のバリアフリー化は進んでいない。 障害者福祉団体として、総合学習の時間に講師派遣を依頼されるが、現状では車いす講師の派遣は難しい。また、一般教育を受けられる障害者が地元で共に学べる機会が奪われているほか、障害を持った親は学校を訪れることができない、障害を持った先生も赴任先が限られる。 このような現状を踏まえ、教育委員会に働きかけてほしい。
2	金井委員	第3章 基本理念 第2節 基本戦略の 設定 P.40	基本戦略1 家族の在り方が書かれているが、少子高齢化、核家族化、単身化が大きな要因ではないか。 基本戦略2 最初の3行では「福祉は行政が行う、そこに主体が関与していく」と読めるが、地域福祉計画の「民間と共同して行う」という理念になじまない。また、最後の2行に「支援を必要とする人」とあるが、自ら言えない人、第三者的に見て支援が必要な人の部分が読み取れないので再考してほしい。
3	金井委員	・機能集約センター の設置 ・地域福祉ネット ワーク会議の設置	機能集約センターは現行計画のロードマップを示しており、モデル事業を実施し、それを第3期計画では実施するとしている。福祉総合相談は、機能集約センターのモデルケースになるものといえる。それを4地域に分けて展開したらどうかとなっており、4つの日常生活圏域に置くことが構想としてある。そのモデル的なものが、今の福祉総合相談窓口である。それを4圏域に分散しようというのが、第3期計画の柱とするはずであった。それを今回は、重層を取り入れながらやっていこうとのことなので、そこを検討材料として案を示してほしい。 機能集約センターという名称が冷たい感じがするので、例えば「〇〇地区ふくしの杜相談センター」などの愛称があると良いのではないか。 また、機能集約センターを地域で動かしていくための仕掛けが、地域福祉ネットワーク会議である。これは、運営委員会のようなものなので、セットで入れてもらえると良いのではないか。
4	金井委員	第4章 施策の展開 基本戦略 1(1)P.51 ②連携のための相 談支援マニュアルの 作成	様式の作成は済んだと思うが、それを活用することを引き続き掲げたらどうか。 また、様式を審議会に公表してほしい。

令和5年度第3回地域福祉審議会における意見について

	発言者	該当箇所	意見
5	金井委員	第4章 施策の展開 基本戦略 1(1)P.51 ③相談支援専門 職の確保	「相談支援に関わる職員には高度な専門性が市必要となることから、…」とあるが、誤りか。
6	金井委員	第4章 施策の展開 基本戦略1 P.53 (2)福祉サービスの 充実	<p>社会福祉法第107条第1項第1号に「地域における高齢者の福祉、障害者の福祉、児童の福祉その他の福祉に関し、共通して取り組むべき事項」と書いてあり、すべてを網羅して書くこととなっている。</p> <p>また、第2号の「適切な利用の推進」は、すべてのサービスを入れることではないと考える。</p> <p>地域共生社会づくりについて縦割りではなく、横串を指すということであり、わざわざ書くことは理念的にも市民から違和感があるのではないかと感じた。書くとしたら、まとめて簡易に書いてもよいのではないかと。</p> <p>P.9(2)福祉サービスの充実についても、入れる必要があるか。福祉サービスの充実は、利用の方法、アクセスの仕方など、共通的にサービス利用をどうするか、仕掛けをどうするかということで、サービスの中身を入れればよいということではないのではないかと。</p> <p>また、これらの事業については、膨大な資料を読み込まないと評価できず、審議会では評価できないと思うので、再考してほしい。</p>
7	金井委員	第4章 施策の展開 基本戦略1 P.54 (3)横断的なサービ スづくり	ヤングケアラーの話が出ているが、当事者が抱える生活課題に対する支援、支援を活用しながら人生を謳歌できる視点、セルフヘルプグループなどの組織への支援などの視点も必要ではないか。これは、地域福祉活動計画にも同様に言える。
8	金井委員	第4章 施策の展開 基本戦略 1(4)P.56 ①公共施設等のバ リアフリー化	移動等円滑化方針により整理がされているのではないかと。それを踏まえ、もう少し整理して書いてもよいのではないかと。促進方針で抜けている居住支援、買い物支援など、ハード面よりもソフト面を充実させることの記載が必要ではないかと。

令和5年度第3回地域福祉審議会における意見について

	発言者	該当箇所	意見
9	金井委員	第4章 施策の展開 基本戦略 1(4)P.57 ④福祉施策の継続 及び啓発事業	自動車運転免許返納者等への支援は、⑪ボランティアによる高齢者の移動支援の充実にもあるように、住民や事業者、ボランティアと一緒に高齢者等にどう支援するかが重要。
10	金井委員	第4章 施策の展開 基本戦略 1(4)P.58 ・障害者福祉ガイド の更新～外国人の ためのくらしのガイド の活用	統合して書かれていればよいのではないか。
11	金井委員	第4章 施策の展開 基本戦略2 P.60 (1)地域人材の確保・育成	社会福祉法第106条第3項にあるように、社会福祉活動の推進、地域リーダーをどう育成するかが行政の仕事とされているので、しっかり書いてほしい。人財バンクや講習会だけでは、リーダーの育成にならないため、育成支援体制も考えてほしい。人財バンクのHP見たところ11名いるとのことだが、何人登録して、活動の実態がどうなのか、明らかにしてほしい。制度を作るだけでは、リーダーの育成には結びつかない。
12	金井委員	第4章 施策の展開 基本戦略 2(2)P.62 ①民生委員・児童 委員協議会への支援	2段落目、民生委員の欠員状況書いてあるが、表現がセンセーショナル。実際の充足率は96%程度で、この書き方では危機意識をあおるような表現のため、書き方を慎重に検討してほしい。 民生委員の指揮監督者は埼玉県知事だが、市としてどのようなお願いをするか、計画に入れていく必要があるのではないかなんでもお願いするということではなく、民生委員の特性を把握した上で、必要なことを民生委員にお願いしてほしい。

令和5年度第3回地域福祉審議会における意見について

	発言者	該当箇所	意見
13	金井委員	第4章 施策の展開 基本戦略 2(2)P.62 ③行政情報の活用 支援	個人情報を活用できることが重要。個人情報保護法の改正により、匿名加工情報、ビッグデータの活用、情報提供も可能になったはずである。
14	金井委員	第4章 施策の展開 基本戦略 2(4)P.65 ①福祉教育の充実	現行計画では「教育課程において」とあり、教育行政(教育委員会)が関わってガイドライン及びプログラムを作るということになっている。社協や地域が協力して作るということで、教育委員会が担当部署として入るべき。
15	金井委員	第4章 施策の展開 基本戦略 2(5)P.66 ②小地域における 住民主体の福祉活動の支援	小地域をどうとらえるか、小学校区というと日常生活圏域よりも小さい。小学校区域とするか、自治会レベルとするか、次期計画で整理したほうが良い。それによって、社協も含め、支援のあり方や活動主体が異なる。
16	金井委員	第4章 施策の展開 基本戦略3(1) ①避難行動要支援者避難支援プラン(全体計画)の策定と周知啓発 P.67 ⑤福祉避難所の設置 P.68	災害時要援護者と避難行動要支援者は異なるため、そこまで見据えて計画化してほしい。 福祉避難所は、市として設置することができるようになった。どの程度の規模や配置が必要か、防災計画と併せて載せてほしい。 また、一般避難所との連携も載せてほしい。

令和5年度第3回地域福祉審議会における意見について

	発言者	該当箇所	意見
17	木村委員	第4章 施策の展開 基本戦略 1(1)P.52 ⑪地域包括支援センターの充実	地域包括支援センターについて、意味合いや組織についてコラムで細かく取り上げてほしい。
18	飯田委員	計画全般	85項目ある取組のうち、14項目の取組の内容の文末が「検討します」になっており、無責任ではないか。検討した結果、実施しないということでは責任があいまい。実現性が低いものも、活用を図る、支援に努めるなどの前向きな言葉としてほしい。
19	宮里委員	第4章 施策の展開 基本戦略1 P.55 (3)横断的なサービスづくり	ケアラー関係について、高齢者であれば認知症カフェもあるが、そこまでいかない人もいる。子どもたちにはそれもない。また、ヤングケアラーの調査については、ぜひ実施してほしい。
20	小暮委員	基礎調査結果	基礎調査の結果では、相談件数自体が減っている。地域包括支援センターや障害者支援センターも同様。生活保護も減っている。相談しやすい体制を検討する中で、相談件数が減る中で、多チャンネル化が解決につながっていくか疑問。統計資料を見た上でないと、方向性が違うのではないか。